

Remember 便り

26号 2009.12.14
リメンバー福岡
自死遺族の集い発行

黙することはたんなる沈黙ではない
秘密の哀しみなど存在しない
語られることのない哀しみは
もっと絶えがたい重荷となる

フランシス・リドレイ・ハヴァガル

あなたに起こる
幸せじゃないすべてのことが
不幸とはかぎらない。
たとえ良くない「何か」が
あったとしても
それで大切なことに
気づけたりするのだから。

平成 21 年 11 月 21 日。

31 回目の集いには 15 名のご遺族がご参加になり、初めての方は 7 名でした。

わかち合いが終わり、そっと自分を振り返って頂く時間に、今回も 6 名の方々が感想を寄せてくださいました。

そしてお茶を飲みながら、気の合った仲間との語らいは、涙あり・・・笑いあり・・・

★ 前々から集いのことは知っていましたが、なかなか来れず・・・

勇気を出して来て良かったです。

普段は話せない内容や、自分の思いを聞いていただけてありがたかったです。

また自分を見つめ直すきっかけになればと思います。

次回からも参加したいと思っています。

参加したいと思ってもなかなか来れずにいる人や、まだ集いの場を知らない方達、一人でも多くの方が次回から参加できることを願っております。

★ 今年もあと 1 ヶ月余りとなりました。

1 年間どうにか落ち込まずに生きてこられたのも、2 ヶ月に 1 度のリメンバーのおかげです。

1 月には息子の命日がきます。辛いけど自分だけじゃないと心に言い聞かせ、乗り切りたいと思います。

★ 13 年前に母を亡くし、やっとこういう場に参加することが出来ました。

ありがとうございました。

★ リメンバーは、我が子を亡くしても生き続けなければいけない私にとって、唯一心を休めることが出来る大事な場所です。

感謝しています。



★ 初めて父の自死のことについて、話す機会を得ることができました。
今日参加したことで、自分がどう変わるか、または変わらないか、見守りたいです。
スタッフの方々、ありがとうございました。

★ 初めての集いでした。
同じ経験をした人が集うことも、話をすることも普段は出来ないのも、良い経験になりました。
同じ経験をしなくても受け取り方、思い、時間がたってからの心の変化がそれぞれに違うんだ、私は私のペースで、私の考え方でいいんだ。と思いました。
来てよかったです。

街路樹が色づき始めたころ、美しい絵手紙が届きました。
やさしく描かれた花の横には、

隅々まで光が届きますように



そんな言葉が添えられていました。

9月の集いではお世話になりました。
初めての参加で、会場へ行くまでの葛藤と、着いてからどこに身を置いたらいいのか、正直長いながい一日でした。
自分自身の話しをすることも、参加されている人の話を聞くことも、とてもエネルギーのいることだと思いました。
こうした場所があることで救われている人がいらっしゃるの、ボランティアの皆さんがあつてのことだと思つづく感じました。
今はまだ次に行こうという気にはなれませんが、5周年記念の講演会には都合がつけば行きたいと願っています。本当にありがとうございました。 H21. 11. 18

私の主人は 自殺しました。
慰めや、同情はいりません。
どうか、そんな目で私を見ないでください。
主人は 主人なりに精一杯生きた結果なのです。
主人は 悪くありません。
精一杯生きた人を悪く言わないでください。

あなたの死によって同僚や会社の人々が人生を考えてくれたら
いいですね。過酷な長時間労働がない世の中になればいいですね。
(平成 20 年 1 月発行 大切なあなた リメンバー自死遺族のメッセージ集より)

「自殺は個人の問題」ではなく

平成 21 年 12 月 3 日 西日本新聞朝刊より転載

夫の自死を労災と認める全面勝訴の判決を受けて、妻は声を詰まらせてこう言った。「主人が誇りをもってまじめに一生懸命働いていた会社と、こういうかたちで闘いたくはありませんでした。しかし、主人の死を個人の問題として終らせたくなく、裁判をしました」

葬儀に参列した会社の同僚が何気なく口にした「あいつも、たいしたことなかったね」というひと言と、腫れ物に触るように遠のいていく周囲の目に刺されるようにこの 5 年を生きてきた妻は、まじめで優しかった主人は駄目な人だから死んだのではない、働いて働いて自分をコントロールできなくなって無念のまま逝ってしまったのです、そのことを分かってくださいといういちずな思いで裁判にい臨んだ。

亡くなったとき、仕事場から妻の留守宅に戻った夫は、その日に限って車を斜めにとめ、ウインカーも作動させたままキーを引き抜いていた。一方で、旅立ちを告げるように靴を玄関にそろえ、集合住宅の非常階段を上っていったのだった。

その朝早く。妻が目覚ますと夫が顔を見つめていた。「お前の顔をずっと見ていたら面白かった」と言った。眠ることが出来なかったんだと知った。

死の直前にも妻に「声が聞きたかったから・・・ありがとう」と電話をかけている。

胸騒ぎはしていた。どうして死なないでと叫ぶことが出来なかったのか。力づくで会社に行くのをとめればよかった。裁判は、うつ発症を察知することを含めて遺族に過失はないというが、夫を守れなかった自責の念に妻は苦しみ続けている。勝訴で癒えるものでもないだろう。

「裁判までしないと、1人の人間の死について考えてもらえないことは残念でなりません」と妻は言う。それは一義的には会社に向けられた批判だが、11年続けて3万人を超える自死者とその背景にあるもの、遺族に目を注ぐことをためらう私たちにも問われているのではないか。

判決が裁いたのは労働問題にとどまらない。 (編集委員 田川大介)

リメンバー福岡 5周年 記念講演会のご案内

「語れる自殺 語れない自殺」 最愛の人・大切な人が自殺したとき
あなたは どうしますか

◇日時◇ 平成22年2月7日(日) 13:00～17:00 ◇場所◇ あいれふ 10F ホール

◇参加要綱◇ 入場無料。事前に予約受付あり。定員 250 名

◇基調講演◇

「福祉と自殺問題」講師： 町永俊雄氏 NHK キャスター・エグゼクティブアナウンサー
(NHK ETV ワイド「ともに生きる」福祉ネットワーク)総司会者)

◇パネルディスカッション◇

「語れる自殺、語れない自殺」(DVD“わかち合う声”上映)

- 町永俊雄氏 NHK キャスター・アナウンサー
- 清水康之氏 NPO 法人自殺対策総合支援センターライフリンク代表
- 西田正弘氏 あしなが育英会虹の家課長・チーフディレクター
- 井上久美子氏 リメンバー福岡自死遺族の集い代表
- 遺族 リメンバー福岡自死遺族の集い

申し込み受付は、平成21年12月中旬から



本の紹介

- ・自殺で家族を亡くして 全国自死遺族総合支援センター「編」 三省堂
- ・自殺した子どもの親たち 若林一美 著 青弓社
- ・我が家 大谷美和子 くもん出版
- ・自殺って言えなかった。 自死遺児編集委員 あしなが育英会「編」
サンマーク出版
- ・ぼくの父さんは、自殺した。 今西乃子 そうえん社

リメンバー福岡自死遺族の集い 次回ご案内(第32回)

日時 2010年1月24日(日) 13時15分から16時まで

★ 13時受付開始・13時15分までにお越しください

会場 あいれふ8F 婦人会館 視聴覚室 福岡市中央区舞鶴2-5-1
会場は「リメンバー福岡」となっています

参加費 1000円 ★第33回遺族の集いは2010年3月28日(日)です

【お問い合わせ先】 Tel. 092-737-8825 福岡市精神保健福祉センター

【メールアドレス】 rememberfukuoka@yahoo.co.jp お問い合わせ・ご意見など

【HPのアドレス】 <http://www.rememberfukuoka.com> 会場・日時・などのご案内

【寄付の窓口】 郵便振替 口座番号 01780-1-108383 口座名称 リメンバー福岡

主催 リメンバー福岡自死遺族の集い
共催 福岡市精神保健福祉センター

編集 Kumiko Inoue

